

平成 29 年度 第 1 回 談話室報告

6 月 3 日（土）1 時半～3 時半 横浜社会福祉センター901（桜木町）

☆計 4 名の参加者があった（うち 1 人は非会員）役員 3 名で対応。

① 50 代女性

10 年ほど前から腰痛、3 年前から膝も痛くなった。妊娠中も股関節が一時的に痛いことがあった。通院している整形外科ではマッサージ、ハリ等の治療も受けられるのが良いと思っている。

股関節の経過観察として他の総合病院にも通院し股関節専門医に診察を受けている。現在は両側形成不全の初期と言われていて保存療法としてリハビリ、マッサージなどで治療中。リハビリについてもっと知りたい。

（アドバイス）正しい方法でのリハビリが大切なので現在のように PT など専門家の指導の下で行うことはとても良い。会報掲載のリハビリを参考にしてほしい。また感染予防の点からハリ治療はやはり避けたほうが良い。

② 50 代女性

先天性股関節脱臼で子供の時に手術を受けた。結婚、出産もし、仕事もしていたが痛みなど不自由になってきて今年の 1 月に両側同時人工股関節置換術を受けた。2 週間後、別の病院へリハビリのため転院。3 週間後に退院。その後 1 か月くらいリハビリに通う。仕事復帰もした。

痛みはないが可動域はまだ広がらず靴下をはくのに苦労する。少しずつは良くなってきてはいる。術後に注意することなど知りたい。

（アドバイス）術後もできれば PT などの専門家に定期的にもリハビリを受けられると良い。術後間もないのでまだ焦ることなくゆっくり無理せず続けていくことが大切。

③ 60 代女性

平成 4 年に大学病院で左人工股関節置換術を受けた。今までは問題なく過ごしてきたが最近では使いすぎると両側とも痛みが出る。通院している担当医師に不安を感じ、他の医師に変えて欲しいが予約の時に理由を聞かれて変えにくい。

再置換の時の医師はどのように決めるべきか知りたい。

（アドバイス）担当医師との相性は大事なので変えることも悪くない。再置換についても役員の経験上、前の担当医でなくても手術に支障はない。同じ病院内で担当医師を変更しづらいならば別の病院に変えるのも一つの方法。

④ 40 代女性（非会員、山梨県在住）

県外の整形外科に通院。16 年位前から腰痛のため診てもらう。腰のヘルニアとの診断

だった。この時 股関節のレントゲンは撮らなかった。

2、3年前より膝、脚の付け根が痛くなり、1ヶ月前に初めて股関節のレントゲンを撮って変形性股関節症と診断された。右側末期で手術適応と言われた。現在は足のしびれ、立ち上がりの激痛、階段の上り下りなどが苦痛。

整骨院で体のバランスを整えてもらっている。少しは痛みが軽減する。

何も知識がないので今後どのようにしたら良いか知りたい。

（アドバイス）とにかく股関節に関することを「のぞみ会」に入会してよく学んで頂きたい。保存療法として入院してリハビリを受けられる病院を紹介。年齢的に若くても人工関節の耐久年数や再置換の技術は向上しているので 手術も視野に入れて今後どのように治療するか、正しい情報を得て十分に学んだ上で選択すると良い。